

平成18年度 菅生子ども文化センターの管理運営に対する評価について

1 指定管理者

(1) 指定管理者	菅生子ども文化センター運営協議会(川崎市宮前区菅生が丘13-2)
(2) 指定期間	平成18年4月1日～平成23年3月31日
(3) 業務の範囲	菅生子ども文化センターの管理運営に関すること 稗原小わくわくプラザの管理運営に関すること

2 事業に関すること

評価項目	平成18年度管理運営の状況	評価及び指導
(1) 施設の運営に関する職員体制に関すること	職員は「児童厚生員」の有資格者を確保することができ、サポーターやパートナーを含めた職員については施設を有効に機能させられるように、資質を向上させるため、月例の研修会を実施した。また、週1回の職員会議を実施し一丸となって運営した。サポーターについては、必要人数を確保し円滑な施設運営を行った。	常勤職員については、「児童厚生員」の有資格者を配置し、毎週職員会議を実施し、利用児童等への配慮に努めたことは評価できる。職員の研修については、各種研修等を実施し、スキルアップに努めたことは評価できる。
(2) 施設の管理運営に対するニーズ等の把握に関すること	毎月利用団体を中心とした「企画会議」を開催し、児童の様子を話し合うとともに、常に職員が子どもたちと触れ合う中でニーズの把握に努めた。子ども文化センターでは、子ども向けのアンケートを実施することで子どもたちの意見を聴取し運営に生かした。わくわくプラザでは「こどもミーティング」を毎月開催し、ニーズを把握した。保護者懇談会は親子参加の行事を実施することにより保護者が参加しやすいように工夫をした。	利用団体を中心とした「企画会議」を開催し、会議の中で地域児童等のニーズを把握し、児童への対応や運営に反映したことは評価できる。わくわくプラザの「こどもミーティング」を毎月開催し、子ども達の意見を聴取してニーズを把握したことは評価できる。また、利用者アンケートを実施し、ニーズの把握に努めたことは評価できる。
(3) サービスの提供に関すること	市民活動支援の一環として印刷機器などの提供を行い、各自治会の資料作成などに使用され好評を得た。また、清掃活動の徹底、笑顔での対応・声かけを徹底した。アンケート調査から、従前よりも利用しやすくなったとの意見があり、管理面については、常に環境整備に努め、清掃活動などを徹底していた。	アンケートの中で、利用しやすくなったとの意見があったことは評価できる。行事等の運営方法については、好評な行事をクラブ化するなど、利用児童のニーズに応えていたことは評価できる。また、管理面については、常に清掃活動の徹底や環境整備に努めたことは評価できる。
(4) 事業の実施に関すること	利用者のニーズに応じて多彩な事業を実施した。また、運営協議会が運営することから、地域との連携による事業に成果をあげた。地域の人がかかわりを求めている潜在的なニーズを掘り起こし、おもちゃのお医者さん、介護なんでも相談等を実施し、住民のかかわりが増えた。野外活動を中心に活動するクラブ「ONEパーク」や、今年度前半行事として行い好評であったおやつ作りを「おやつ作りクラブ」として実施した。菅生子ども文化センターのクラブの特徴として、メンバーを固定化せず、プログラムメニューを事前公表することによって好きなプログラムに参加できるとした。	運営協議会が運営しているメリットを活かし、地域連携による事業に成果があったことは評価できる。利用者ニーズに合わせた行事のクラブ化等、工夫を凝らしながら運営しているところは評価できる。
(5) 個人情報の取扱に関すること	「個人情報に関する取扱について」を受付に掲示するとともに、職員に個人情報の取り扱いについて研修を実施した。職員に「必要以上の個人情報は聴取しない」こと、また「個人情報を持ち歩かない」ことを徹底した。ホームページをはじめ広報誌等の個人情報については、必ず許可を得て掲載した。	個人情報の収集や保存等取扱いは適正に行われている。19年度も研修をはじめ、個人情報の保護の徹底を図ること。
(6) 施設の安全管理に関すること	施設の日常点検及び清掃を行い安全管理を徹底した。中庭屋根等、職員・地域ボランティアの労力提供によって屋根のペンキ塗り替えを行った。滑り台のタイヤ階段の設置、施設内の壁紙の補修などを住民協働で実施した。自然環境を活用した遊びは、危険を伴う場合もあり、子ども達には安全に対する知識を体で習得させ、段階を踏んでチャレンジすることを教えるとともに、それを職員が必ず見守り指導することとし事故を回避している。	日常点検、施設管理を徹底し、地域連携の中で環境整備に努めたことは評価できる。自然環境を活用した遊びも展開できるよう安全面に配慮したことは評価できる。

3 利用状況

評価項目	平成18年度管理運営の状況	評価及び指導
(1) こども文化センター	(1) 年間延べ利用者 17,181人 (2) 年間延べ団体利用数 272団体 ア 青少年団体 25団体 イ 市民活動団体 191団体 ウ 幼児グループ 51団体 エ その他 5団体 (3) 主な行事 (参加人数) ア わかば祭 460人 イ 年末お楽しみ会 165人 ウ ひこばえ「お店やさん」 150人	従前よりも使いやすくなったというアンケート結果を得ている。軽易な修繕なども地域の人たちの協力を得るなどのほか、地域と連携した行事を行い、利用者拡大に努めたことは評価できる。次年度も広報活動や地域に密着した魅力的な行事を行うことで更なる利用者の増加に努めること。
(2) わくわくプラザ	(1) 登録数(19年3月統計) 219人 (2) 登録率(19年3月統計) 47% (3) 年間延べ利用児童数 9,290人 (4) 障害児登録数(19年3月統計) 1人 (5) 年間障害児延べ利用数 159人 ア わくわくまつり 150人 イ 流しそうめん&水遊び 70人 ウ みんなでおひる 56人	こども文化センターと連携した行事を行い、こども文化センターとわくわくプラザの相互の交流に努めたことは評価できる。今年度の利用状況を精査し、日常の活動やイベント、安全への配慮等に工夫をし、事業の実施に努めること。

4 経費の執行に関すること

評価項目	平成18年度管理運営の状況	
(1) 平成18年度経費執行状況	平成18年度指定管理料 24,093,000円 費目 支出額 1 人件費 21,527,431円 2 管理費 2,090,201円 3 事務経費 490,314円 4 合計 24,107,946円	経費の執行については、指定管理料以上の支出となった。今後については、事業執行の妨げにならないよう、計画的かつ適正な執行を行うこと。

5 管理運営(事業執行)に対する全体的な評価

<p>管生こども文化センター運営協議会は、管生こども文化センターと稗原小学校わくわくプラザの指定管理者として管理運営を実施した。</p> <p>施設管理については、始業時の安全点検及び清掃を徹底し、利用者が快適に過ごせるよう努めていた。わくわくプラザについても、安全点検や清掃を徹底し、スタッフ打合せやスタッフ会議で情報交換や利用児童状況の把握に努め、児童が安心して過ごせるようにした。研修については、こども文化センター及びわくわくプラザ職員に対し、普通救命講習会や障害児について及び中学生の支援について等の各種研修を行いスキルアップに努め、利用者への適切な対応や接遇が図られた。</p> <p>地域利用団体との連携や、地域とのふれあい活動の協力を得て、多岐に渡るボランティア人材を発掘し、市民サービス向上に努めた。また、ホームページをはじめ地域向け広報紙「ひまわり」の発行など、広報活動の充実を図った。</p>
--

6 来年度の管理運営(事業執行)に対する指導事項等

<p>こども文化センター・わくわくプラザ事業の適切な運営ができるよう、会議や研修計画に基づきスタッフのスキルアップに努めること。管生こども文化センター運営協議会の特性を生かして、地域と密着した豊富な人材を活用し、行事等の事業展開を、より一層充実させるよう努めること。</p> <p>わくわくプラザについては、今後も施設の安全管理を徹底すると共に、利用者のニーズを把握し児童にとって魅力的な行事や事業の充実を努めること。学校との密な連携を図り、安全で楽しい居場所となるよう努めること。</p> <p>経費の執行については、事業実施の妨げにならないよう留意し、計画的かつ適正な執行に努めること。</p> <p>また、業務の達成度を明確にし、職員が業務に積極的に取り組めるよう、目標設定できる事項に関しては、数値目標を定め、達成に向けて取り組むこと。</p>
--